

授業改善推進プラン 4年

令和7年度 小平市立小平第十三小学校

	身に付けさせたい力	手だて
国語科	・漢字の読み書きを正しく身に付け、本に親しみ語彙を増やす。	・朝読書や国語（図書）の時間で、読書の時間を確保する。 ・漢字ドリルやデジタルドリルを活用し、繰り返し練習する機会を設け、学習の日常化を図る。
	・自分の考えとその根拠となる事柄の関係を明確にして表現する。	◎文章や発表の基本の型を示し、自分の考えの根拠となる部分を具体的に示す。
	・筋道を立てて考える力や豊かに想像する力を身に付け、日常生活において伝え合う力を高める。	・話の中心や場面の様子に着目し、登場人物の心情を想像したり、考えを共有したりする時間を十分に確保する。 ・学習者用端末やワークシートを活用しながら、ペアやグループでの話し合い活動に取り組みせ、多様な考えにふれる場を設定する。
社会科	・調査活動、地図帳や各種資料を読み取り、必要な情報を調べ、まとめる技能を身に付ける。	・資料を読み取る視点を示して、地図帳や各種資料を読ませる。必要に応じて地図や表、グラフ、画像等の資料を学習者用端末で配布し、情報共有や学習のまとめに活用させる。
	・考えたことや分かったことを具体的に表現する。	・資料から読み取った事実だけでなく、そこから何が分かるのか、自分たちの生活とどう関連付けられるのか、考えさせる活動を授業の中に組み込む。
	・学習したことを自分の生活に生かす。	・単元の最後に学習したことや考えたことをノートや新聞、ポスターなどにまとめ、どうやって自分の生活に生かせるかを考えさせ、議論、実践させる。
算数科	・整数・小数・分数の計算、図形の構成、定規や分度器の操作、表やグラフに表す技能を伸ばす。	・計算ドリルやデジタルドリルで繰り返し練習する。AI機能を用いて、苦手な問題を中心に組み立てるなど、学習の個別最適化を図る。 ・朝学習の時間にベーシックドリル、診断テストを活用した反復練習を行う。
	・解決方法や結果について交流し、多面的に捉え思考する力を身に付ける。	◎既習事項を基にした自己解決の時間、ペアやグループで考えたことの発表や交流・検討の時間を十分に設定し、多様な考えにふれられるようにする。
理科	・観察したこと、実験して分かったことを関連付けて考えを深める。	・観察の視点や実験の目的を明確にし、予想、計画、実験、観察、記録、考察、まとめをさせる。
	・自然に対する興味・関心をさらに高め、より細かく観察する。	・観察していく内容については、実物の提示や学習者用端末での動画・写真の提示を行い、視点を絞って観察できるようにする。
音楽科	・友達の声や音と合わせて歌ったり演奏したりすることができる。	・互いの歌声や演奏を聴き合ったり、伴奏の響きや副次的な旋律の響きを聴きながら演奏したりする活動を取り入れる。
	・感じたことや気付いたことを自分の言葉で表現できる。	・曲想を表現できる言葉や語型を提示し、それを活用して言葉や文章でまとめる機会を設定する。
図画工作科	・自分の発想や基礎的な技能に自信をもつ。	・授業中に友達の作品を鑑賞する機会を意図的に増やし、工夫した事や良いところを認め合う場面を設定する。
		・新しい道具は、導入時に使い方を説明し、児童間で確認し合い、安全かつ適切に扱うことができるようにする。
体育科	・場や用具の安全に気を付け、友達と励まし合い、教え合いながら協力をして運動に取り組むことができる。	・各単元の導入で場や用具の扱い方を重点的に指導する。また、友達との関わり合いの仕方を明確にして基本の型を示す。
	・運動の特性に応じた技能を身に付ける。	・技能ポイントを明確に伝える。友達同士で見合ったり、学習者用端末で撮影したりして、ポイントに気付かせる。自分の課題や練習方法の工夫を意識させて技能を身に付けていく。
	・自分のめあてをもち、課題解決への意識を明確にしながら、主体的に学習に取り組むことができる。	・学習カードで自己を振り返り、自分の課題を確実にもたせる。課題解決に向けた練習方法を提示し、見通しをもって取り組ませる。
特別の教科 道徳	・登場人物の気持ちを考えたり、友達の意見を尊重したりする。	・役割演技や意思表示カード等を積極的に取り入れ、考えやすくするとともに、考える時間や話し合う時間を十分に確保し、様々な考え方があることを理解させる。
	・自分自身の生活を振り返り、より良い自分の姿を考えることができる。	・自分の経験や道徳的価値に向き合うために、友達の考えと自分の考えを比べる時間や自分の考えを書く時間を十分に確保する。
外国語活動	・外国語を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。	・英語の歌やゲームなどの活動を工夫して取り入れる。
	・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。	・文で伝えるコミュニケーションの活動を増やし、友だちとのペアワークなどのやり取りの中で学ばせる。

手だての ◎ は令和7年度の学年における指導の重点を示します。
手だての下線部は、改善に向けた具体的な方策を示します。